

BankART1929 放浪顛末記

2018年3月「BankART News Vol.12」より転載

2004

- 3月6日 BankART1929誕生
- 2004年初夏、旧富士銀行への東京藝大誘致（横浜市）が突然決まり2004年末に撤退



BankART1929 Yokohama



BankART1929 馬車道

2005

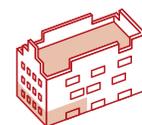
- 1月15日、BankART Studio NYK (1,600㎡) がオープン（1Fの1部と2Fを活用）



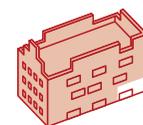
BankART Studio NYK/1F+2F
(旧日本郵船倉庫)
1600m²

2008

- 横浜トリエンナーレ開催に向け全面改修のため一時撤退
- 会期中は横トリ会場にBankARTは屋上と1F部分のみ使用
- 12月、BankART Studio NYKが本格的なオルタナティブスペースとしてオープン（約3,000㎡）



横トリ2008会期中は
屋上とBankART Miniのみ使用



3000m²

2009

- 4月にBankART 1929 Yokohama（旧第一銀行）は撤退

↑ 新しくヨコハマ創造都市センターが誕生（横浜芸術文化振興財団運営）

2004年の3月6日 **BankART1929誕生** みなとみらい線の開通を機に駅上に位置する旧第一銀行と旧富士銀行を活用してのBankART1929が誕生。

2004年初夏、旧富士銀行への東京藝大誘致（横浜市）が突然決まり2004年末に撤退。芸大がくることは嬉しいニュースであることを理解してはいたが、契約期間内の移動に対して、BankARTからは、「タイムラグなく、同規模で、歩いていける場所」という

難題を市に投げかけた。市は全市体制でこの難問を見事に解いてくれた。休眠状態だった旧日本郵船倉庫を借り上げ、その一部を改修して**2005年1月15日、BankART Studio NYK (1,600㎡) がオープン**。2005年4月には旧富士銀行の大改修を経ての東京藝大映像学科開校という離れわざをやったのけた。

横浜トリエンナーレ2008が予定していた会場が急遽キャンセルになり、BankART Studio NYKを全面改装して活用する話が持ち上がる。その結果、横トリ2008終了後はBankARTは放浪の旅にでることになる。実際には、NYKの横トリ開催時間終了後は、夜間だけオープンする屋上での展覧会を行った、1FにはキッチンやBankART Mini（ギャラリー）もちゃっかり確保した。

横トリ終了後の**2008年12月、BankART Studio NYKが本格的なオルタナティブスペースとしてオープン（約3,000㎡）**。原口典之展等、大型の企画展がスタートした。面積が十分確保されたこともあり、**2009年4月にBankART1929 Yokohama（旧第一銀行）は撤退**。



BankART1929 Yokohama（旧第一銀行）2004.3~2009.3



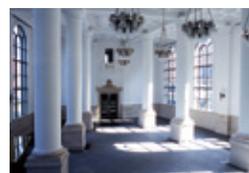
BankART1929 馬車道（旧富士銀行）2004.3~2004.12



BankART Studio NYK / マナイタ Pub 2005.1~2008.3



北仲 BRICK & 北仲 WHITE 2005.6~2006.10



1929ホール



馬車道ホール



BankART 桜荘 2006.6~2010.3



BankART 妻有 桐山の家 2006.7~



BankART Studio NYK 屋上



BankART かもめ荘 2008.5~2010.3



BankART Studio NYK



原口典之「社会と物質」NYK 3F



本町ビル45（シゴカイ）2006.11~2010.9



本町実験ギャラリー 2008.5~2010.9



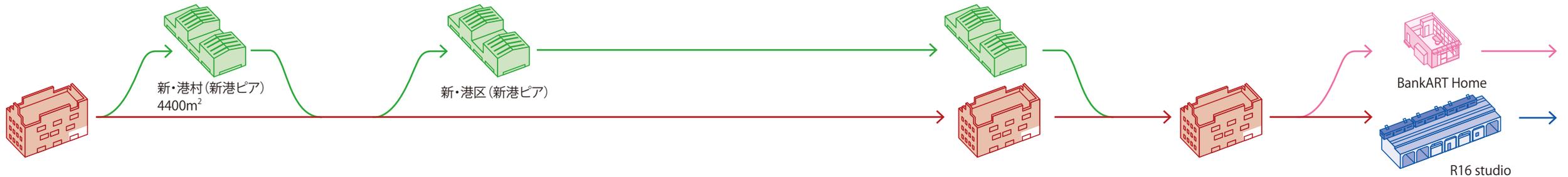
宇徳ビルヨソカイ 2010.10~2017.9

2011

- 7月 横トリ2011開催のためNYK一時撤退
新港ピアへ(4,400㎡)

2012

- 4月 ハンマーヘッドスタジオ新・港区スタート



2014

- 3月 ハンマーヘッドスタジオ新・港区「撤収展」を最後に終了
- このころを起点にNYKでの活動が安定し大規模な企画展が続いた

2018

- 日本郵船と契約更新できずNYK移転
旧日本郵船倉庫は解体予定
- 5月 BankART Home オープン
- 8月 R16 studio 活用スタート

2011年、横トリ2008の際に第二会場として建設された新港ピア(4,400㎡)が、組織委員会では活用しないこととなり、再び、トリエンナーレの本会場としてBankART Studio NYKに矛先が向き、準備、開催期間は撤退することになる。一方、新港ピアの活用は横浜市にとってはマストだったため、リリーフとしてBankARTが当番することになり、「新・港村」というプロジェクトを開催する。

終了後、次回の横トリに活用するかは保留という事情もあり、BankART1929が事務局を務める実行委員会が、2012年度、2013年度は「ハンマーヘッドスタジオ新・港区」という巨大シェアスタジオとして活用することになる。

満期終了の中、横トリ2014がこの空間を再び活用することになったので、「新・港区」は2014年春「撤収展」を最後に幕を閉じた。その頃から、NYKが安定してきたこともあり、大型の個展「川俣 正展」、「かたちの発語展」(田中信太郎+岡崎乾二郎+中原浩大)、「柳 幸典展」の他、横トリと連動した「東アジアの夢~BankART Life IV」「観光~BankART Life V」等の大規模な企画展が続いた。

2018年度のBankART Studio NYKからの撤退。今回の移動もなんとかなるだろうと、基本的には楽天的に考えているが、今度ばかりは積み重ねたもの(関係)が大きいので、正直いってちょっと大変だ。さて、これからどうなるか? 街なかにもぐりこむかもしれないし、息途絶えてしまうかもしれないし、どこか知らない街で生き延びるかもしれないし、再び横浜に新しい本格的な居を構えることができるかもしれない。まさに放浪の最中であり、この文章を記している今現在でも本当のところ、わからない。ただどんな風になろうと、どこにいようと、BankART 1929は横浜で生まれ、横浜に拠点をおくオーガナイザーとして、存在し続けていきたいと考えている。生き続けていきたいと思う。



BankART Life III「新・港村」
2011.8~11



新・港区オープンスタジオ



川俣正「Expand BankART」
2012.10~2013.1

こうして本道の流れを記してもかなり複雑だが、これ以外にも、BankARTは、大型のシェアスタジオを推進してきており、その代表的なものが、「北仲BRICK&北仲WHITE」だ。2005年当時、森ビルが再開発を進めていたゾーンに建つ「元帝蚕倉庫のオフィス」を活用した巨大なシェアスタジオだ。250余名のアーティスト、クリエイターたちが居を構えていた。一年半の満期終了後も、こうしたクリエイターたちは横浜に残り、「ZAIM/横浜市文化芸術振興財団」、「本町ビルシゴカイ」、「宇徳ビルヨンカイ」等にリレーされていった。こうした動きに拍車をかけたのが横浜市のクリエイター助成制度で、関内外地区には数多くのクリエイターが居を構えるようになった。その他、街なかにも、「BankART 桜荘/黄金町」、「BankART かもめ荘/日ノ出町」、「本町ギャラリー」などを所有し、展覧会、レジデンス等に活用した。また、早い時期にBankART妻有を設置し、2015年には海外の初の拠点BankARTベルリンと続いた。



ハンマーヘッドスタジオ新・港区
「撤収展」2014.3



BankART BERLIN 2016~2017



BankART Home

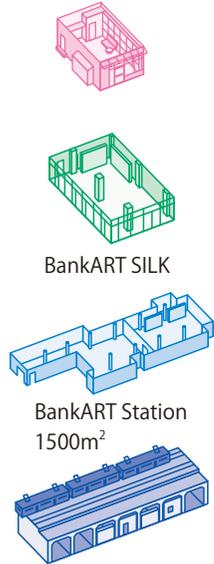


R16 studio

続・BankART1929 放浪顛末記(2019~2024年現在)

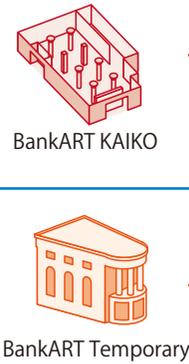
2019

- 2月 BankART SILK、BankART Station スタート



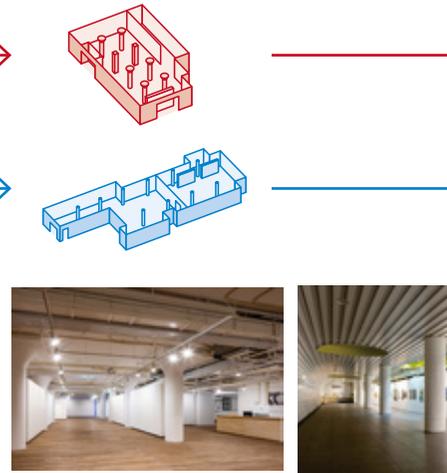
2020

- 3-4月 コロナ禍で展覧会活動の休止が続く
- 5月 1年間限定で旧第一銀行を BankART Temporary 運用開始
- 8月 BankART SILK 撤退
- 10月 BankART KAIKO スタート
- 11月 BankART Home 終了



2021

- 3月 R16 studio 耐震的な調査の結果撤退。
- 3月 BankART Temporary 契約終了



2024

- 3月 BankART20周年
- 11月 BankART Station の場所の次年度運営者を決めるコンペに落選。予算の関係もあり、Bank ART KAIKOも今年度で運営終了が決定。そして、20年間続いた横浜市との契約が終了。

2025

- 3月 BankART Station と BankART KAIKO の完全撤収完了
- 4月 これからどうなる BankART ?

2018年、中核施設だった BankART Studio NYK の建物が解体されたのを機に、みなとみらい地区、馬車道地区に分散し、4つの施設の連携を図りながら運営を行ってきた。2021年度からは4年間、馬車道地区(旧市街地)の BankART KAIKO と新高島地区(みなとみらい21地区)の BankART Station を拠点に都市の中のプロジェクトを推進継続していく予定である。



BankART SILK

BankART KAIKO：大正時代、全国の絹が集まり、日本近代の礎を築いた帝蚕倉庫が広がっていたゾーン。現在、超高層マンション、ホテル、店舗などを中心とした複合施設として生まれ変わろうとしている。BankART KAIKO は、その1926年生まれ帝蚕倉庫の一棟を復元した建物の1Fに位置する。立地に恵まれた620平米の空間を活かしながら、オルタナティブな活動を展開していく。

BankART Station：みなとみらい線新高島駅構内地下1Fの、展示室と倉庫からなる約1,500平米のスペース。地上階との連結のために用意されていた空間が諸事情の理由で使用されなくなったのを機に、横浜高速鉄道から大きな空間を提供していただいた。周辺地区は建築的なラッシュで数十社に及ぶ国内外の一流企業が大規模なビルを建築中だ。既存の日産や富士フィルムに加えて、新築の資生堂やびあアリーナMM、ソニー等、市民に開かれた空間を擁する新しい都市が生まれつつある。みなとみらいの BankART1929 の中核的な施設として、展覧会、ショップ、スクール等、オルタナティブな運用を目指す。

